

## 収束と終息

2022.6.1

新型コロナウイルス感染症対策をしながらの生活も3年目となっている。テレビなどで、よくコロナの“シュウソク”という言葉を目にする。皆さんは、どちらの漢字を当てはめて考えているのだろうか。

「収束」といえば、おさまりがつくこと。しめくくりをつけること。收拾。状況や事態などが、ある一定の状態に落ち着くことである。

一方、「終息」は、すっかり終わること。絶えること。やむこと。終結すること。完全に終わることである。

言葉の意味から考えると、終息を目指しているし、願っているが、今は、とりあえずその前段階として収束を目指してみんなで努力している段階となるだろうか。新型コロナウイルス感染症に関する社会的な状況などが落ち着き、ほぼ事態が収まってきた場合は収束である。そして、完全制圧の場合には終息となる。

終息はわかりやすい。だが、むずかしいし時間はまだまだかかるだろう。では、収束とは、具体的にどのような状態を想定しているのだろうか。厚生労働省の資料を見てみた。すると、次のように書いてあった。

新型コロナウイルス感染症の感染の収束の定義については、今後専門家も交えて議論が必要であるが、事務連絡による時限的・特例的な取り扱いの趣旨を踏まえると、院内感染のリスクが低減され、患者が安心して医療機関の外来を受診できる頃が想定される。

院内感染のリスクが低減され、患者さんが安心して医療機関の外来を受診できるようになったときが収束である。説得力のある説明である。ということは、収束はまだまだであろう。もうしばらくは、今の生活が続くのはまちがいない。

これだけ長期間にわたり生活様式が変わらざるを得ない状況が続けば、人々のライフスタイルが変化するのは当然である。収束しても元には戻らないものもたくさんあるだろう。あるいは、戻す必要もないことに気づかされた面もあるかもしれない。

いずれは収束はするのだろうが、もしかしたら終息はないのかもしれない。終息する頃には、次のパンデミックを引き起こすような感染症が流行し始めるかもしれない。我々には、そのくらいの覚悟は必要である。